

# プロジェクトコーナー

キーワードは「持続可能」

—PIHS との協働で進める健康な村づくり事業—

今年 6 年目に入ったパササンバオ(PIHS)との協働事業。引き続き今井記念海外協力基金の助成を受けることができました。「村の健康は自分たちで守る」事業を継続中です。



割礼の対象は 5-14 歳位。慎重に縫合する PIHS スタッフ・アバさん。

PIHS 代表のナプサさんからは、4、5月の男児の割礼(Tuli)に3地域で41人が受診し、ヘルスポストも、村の診療所として定着したとの報告が届きました。

きました。

簡単な切開と縫合からなる割礼は保健ボランティアにとって格好の初級外科手術実習の場です。また、病院に行けば500ペソかかるところを50ペソ、それもお金がなければバナナなど物納もOKとあって、貧しいモロの人々はPIHSの巡回診療を待っています。6月新学期前の恒例になっているのです。



ヘルスポストで妊婦検診 (6/6 プアゴ村)

ハーブ薬 825 ペソ、鍼灸治療 760 ペソ、3地区の割礼で1,650ペソ、2ヶ月合計3,235ペソの収入があったという報告もありました。支援が減っても「持続可能」への一歩としていいニュースです。

## パササンバオに診療車を贈るプロジェクト

— 5月総会で承認 —

〈募金目標 50 万円。どうぞご協力下さい〉

期限:2007年12月末。通信欄に「診療車」とお書き添えください。当会ホームページにはPIHSに滞在し、その活動をつぶさに見てきた記事が掲載中です。また募金ちらしをダウンロードできます。

プロジェクト担当:渡辺せいこ

雨は必要、だが雨季は動けず

ブハガン・プロコンのアグロフォレストリー足踏み

緑の募金交付金を受けて実施中のスルタンクダラト州バグンバヤン町のアグロフォレストリー事業が8月末の事業終了を前に足踏み状態です。

植林ボランティアを募集した6月のブハガン訪問も現場までは無理とのことで、ブラクルの学校農園で植樹しました。



ブラクルへの道で3回立往生した車。会員小林さんも脱出に協力。右はコーン満載のトラックです。

雨季で土壌流出が進む急傾斜地での作業は地元住民でも危険です。

7月中旬、ようやく植え付けができそう、とのメールが

PPFより届きホッとしています。

早めに播いた土留め作物フランミンジャは順調に伸びています。雨季でも土が流れない山で果樹苗もしっかり根付いてくれるものと期待しています。

—CMIP 苗木育成とモデル農場事業も順調です—



苗木育成・農業指導も大事だけれど、教師として子どもたちも育ててみたい。事業地域の1つバゴンシランで、大学の先輩でもある小学校教師マルリノ先生と夢を語る苗木事業担当ボニファンオ(右) 6/7

—新規2事業も必要資機材の購入が始まりました—

- \*ブラクル校学力向上と職業教育のための教材整備(ひろしま・祈りの石国際教育交流財団助成)
- \*チボリ町スフォ、フィタク村簡易水道建設と衛生指導(国際ボランティア貯金寄附金配分)